

# 第19回eco検定試験総評 (2016.1.25) 記:白石 遼



2015年12月13日に行われたeco検定試験の公式な回答が1月22日に公開されました。当社で公開していた解答速報の内容に誤りはありませんでした。また、第19回の回答関連ワードとその公式テキスト該当ページをホームページ上で公開しております。それと合わせまして、下記に第19回eco検定試験の総評をまとめます。

## ■受験者数

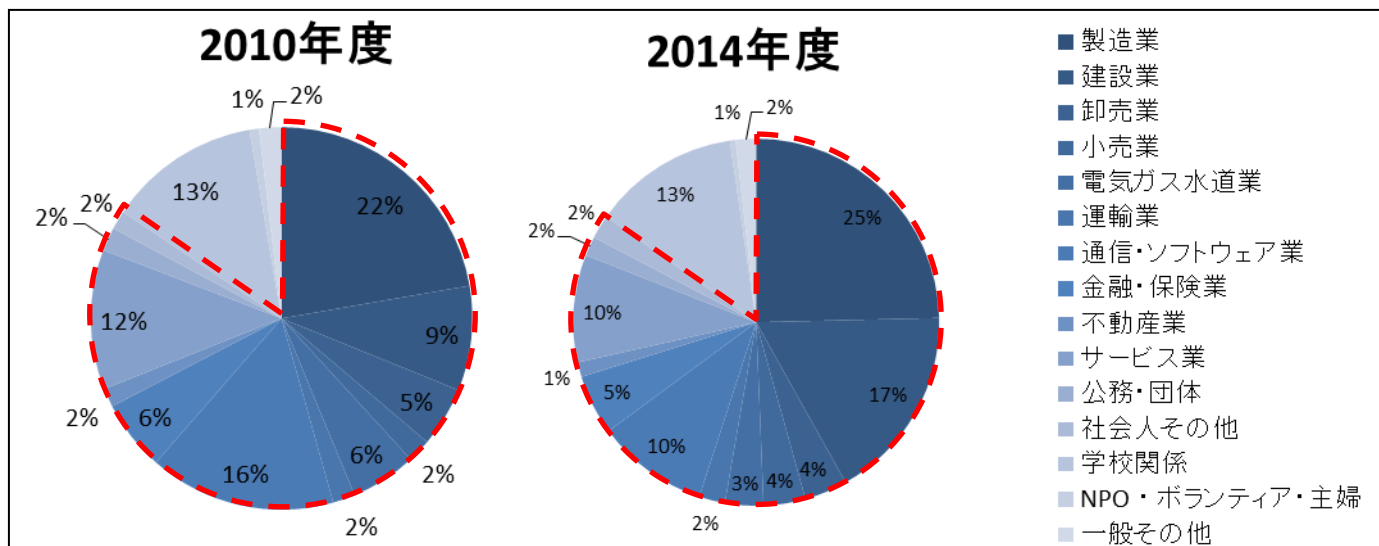
	受験者数	実受験者数	合格者数	合格率
第18回	13,264	11,871	7,390	62.3
第19回	13,389	11,978	6,314	52.7

実受験者数は過去2番目の少なさだった第18回から若干増加しました。対して合格率は第18回に60%台まで上昇しましたが、また50%近くまで下がっており、ここ数回は合格率が安定しない状況が続いています。

## ■試験の難易度に変化はない

実受験者数のピークだった第7回以降で初めて2万人を切るようになった第12回から合格率は概ね50%台で推移するようになりました。第18回が62%だったとは言え、この2年の平均は50%台前半でした。

では、この合格率は試験問題が厳しくなっているからなのでしょう。第19回の出題内容を確認してみると、日本の環境対策の背景にもなっている公害問題をはじめ、国際的に注目度の高い生物多様性といった頻出分野から、世界遺産やCOPの動き、ISO14001の改訂にフロン法の大幅な改正のような、昨年の環境関連トピックスに絡めた時事問題、というように出題の大きな傾向としては変化は見られないと言えます。1つ1つの出題についてもそこまでマニアックな出題はないように見受けられます。



(※グラフは東京商工会議所が公開したデータを元にユニバースが編集)

一方で、図のように受験者の業種別割合についても見てみると大きな変化がありません。(赤点線が学校関係を除く社会人)これらのことから、試験の難易度は例年と変わらず保たれていると思われます。合格率への影響は、出題内容よりも受験者の質の変化、つまり、今までは環境に強い関心のある人、実務としてそういった業務に携わっている人から、興味がある・業務に関わりが無い一般社員の方などへメインの受験者が移り変わっているのだと思います。

## ■今後のeco検定

eco検定は上段でも触れたように、公害問題や国際的な環境問題といった、日本や世界の環境への取組みの土台となる部分を頻出分野としながら、COPの動向や国内の環境法令の改正関連など、時事的なトピックスにも対応した環境について勉強するのにバランスの良い出題がされていると思います。

2020年からの気候変動の新たな世界の動きを前に、国内であれば水銀条約や廃棄物処理法の見直し時期、東京五輪等、また世界の環境問題ではマイクロプラスチックによる海洋汚染の注目度が高まるなど、これからの5年には国内外で環境に関して大きな動きが起こりそうな気配です。

そうした世の中の動きを捉える意味でも、まだeco検定に挑戦していない人も、久しく受検していない人も今後のeco検定に注目、挑戦してみたいはいかがでしょうか？